



第120号  
 発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長 小林義雄  
 編集人 小会報編集委員 長村幸雄  
 印刷所 須坂新聞社

# 将来的な展望に立って

教育の進むべき道・教師のあり方を考えよう

—— 第十一回教育懇談会開催される ——

六月二十七日、教育会館において、六十名の会員が集まり、第十一回教育懇談会が開かれた。全体会の席上で小林会長先生は「学校教育の信頼度が問われ、さまざまな問題が出されている今こそ、学校教育について我々教師がさつくばらんに語り、教師のあり方について考えることが大切だ」と挨拶され、引続いて三つの分散会に分かれ「①教育実践の悩みを語りながら、実践を深めるための研修のあり方を考える ②現下教育上の問題点（非行・登校拒否・いじめ等）とその背景を明らかにし、教師のあり方を考える」のテーマのもとで懇談が深められた。

各分散会では発表者から実践上の悩みや問題点が出され、それに関わって、各年代層の先生方が意見を發表した。中でも、自分の学級が抱えているいじめ等の事例を率直に述べあったり、そこから教師自身のあり方を追究し、話し合いが深められていったことは、先生方の誠実な姿勢とともに印象的であった。

# A君・B君の行動と学級の子どもたち

筒井卓治

専科から一転、一年の担任となつてから三年目をむかえた。入学当初は保育園の延長の友人が中心であるが、お互いをさぐり始めると衝突が増えてくる。だれもがやったりやられたり、特定の子に集中することはなかった。

A君とB君の行動が目立ち始めたのは、二年の十月からである。足をかけられた、悪口を言われたなどの訴えが増えた。A君B君は放課後グラウンドで兄を待つ間につながり、強めていった。子どもたちの訴えも二人の集団に対して

出されるようになった。三月になると、「キヤツキヤツ」などの大声を不意に発するようになった。不安定な状態を感じていた。

三年になると、親や担任にはよくみられたという気持ちからか、陰での行動に移っていった。二人共に他人の行動に対して厳しい眼を持っていくが、自分自身の行動が伴わない。現在、集中して排斥されている存在である。しかられるのがいやで人のせいにする人が多いという

# 登校拒否をしたT児を通して今思うこと

西澤朋子

T児との出会いは、三年生に進級した時である。五月の連休明けから欠席する。二日続けて休んだので家庭へ連絡して様子聞く。祖母から、T児が一年生の時からいじめられていた話を聞く。家庭訪問して本人と祖母から話をきく。学年の先生・校長先生とも相談したり、学級で話し合った。いじめた子も、反省しT児の家まであやまりに行く。そして仲よくできたようであ

ったが、五月の末、熱があり欠席する。それに続き、三日休み。家庭訪問する。朝になると熱が出たり腹痛になるとT児も祖母も困り、私の家まで連れて来る。家でT児とじっくり話す。車に乗せ学校へ行く。クラス全員が出むかえる。二・三日同じことが続き出席するようになった。T児を学級の中に位置づけ、「学校は楽しいところ」と思えるよう、休み時間での遊び

を積極的に取り入れた。家庭でも、学校のことを、いろいろ話すようになったり、母も参観を欠かさなくなった。T児のことを通し、クラスの雰囲気「いじわる」「あだ名」等に敏感に感じるようになった。

今思うこととして、できるだけ早く発見し手だてをうつこと。T児自身が克服している力もつけていくこと。家庭と十分に連絡をとり共通の理解と方針をもって指導していくこと。発達段階をふまえた指導であること。これらが大切であったと思う。

(井上小)



# 郡研究委員会の実証授業を通して

片桐秀一

さる六月十五日の研究日に、中心講師三枝先生のご指導をいただく技術、家庭科の研究授業を行なった。

四月の研究総委員会において、授業者に推薦されたが、数週間は中心講師を迎えての授業という重責に、授業の構想すら立たない状態であった。

いよいよ覚悟を決めて、昨年来、「電気1」の「実用テーパータップの製作」で題材の個別化を試みてきたので、今度は指導の個別化へと研究を深めたいと考え、まず教材、教具の工夫から手をつけ、生徒数分の教具を準備した。

本時は、従来行なってきたような全体追求を思い切ったはぶき、あくまで個人追求の

場を主体とすることにした。そのため生徒の様相を四タイプにわけ一主眼から四主眼とした。初めての試みであり不安もあったが、生徒はそれぞれの課題に意欲的に取り組み、活気のある授業となった。

研究会において、自分では気づいていなかった言葉使いから始まって様々な意見が出された。しかし題材と指導の個別化をはかったことが、全力で自己の作品を作り上げていく生徒主体の学習となった大きな要因であると評価されたのがうれしかった。授業を通して、自分自身の従来の学力観を幾分なりとも転換できたことが大きな成果となった。

(墨坂中)

懇談抄

第一分會

司會 持田 勝 (栗ヶ丘小)
発表 筒井卓治 (高山小)
助言者

山崎昌常任委員 (墨坂中)
記録 岡村博子 (栗ヶ丘小)
出席者

西村 久美 (小山中)
青木さと子 (豊丘小)
中島 幸一 (須坂小)
猪俣 泰子 (豊洲小)
滝澤美津子 (日滝小)
齋藤 誠吾 (高甫小)
奥原 由孝 (高山中)
青木 勇治 (常盤中)
宮島 道義 (東中)
渡辺 忠志 (相森中)
山口 隆司 (小布施中)
宮本経祥幹事 (須坂小)
大森健嗣常任委員 (旭ヶ丘小)
森山明治常任委員 (森上小)

レポート「A君とB君と担任とのかわり」を通して話し合った。

- 一、自分の学級における悩み
(1)自己本位で相手の立場を理解しにくく、他人を批判しがちである。
(2)専科の教員として子どもへの接し方が難しい。
(3)子どもの言動の裏にある事実を知るところに務めたい。
○ 助言者より
(1)子どもの様子は大人も同じ。人間の実在の姿を知り必要がある。

第二分會

司會 宮本良明
発表 西沢朋子 (井上小)
助言者 市川武重常任委員

記録 植木京子 (旭ヶ丘小)
出席者

前田明子 (森上小)
佐藤寿美枝 (豊洲小)
今井俊彦 (井上小)
高橋英敏 (仁礼小)
竹内若則 (小山中)
綿田虎男 (森上小)
金山栄一 (高山小)
丸山 宏 (小布施中)
押原澄江 (墨坂中)
伊東昌徳 (相森中)
小林 弘 (墨坂中)
滝澤宏行 (常盤中)

科学的分析をもとに確かめながら子どもをみていく必要がある。
(2)もめごとの良さと悪さを識別し対処する。
(3)男女共学、相互にどこまで認め合うか迷っている部分がある。相互の特性をみることが大切。男女ではなく、人間だという認識が大切。(記||山岸)



第三分會

司會 名取 昭 (日野小)
発表 片桐秀一 (墨坂中)
助言者 小林考助常任委員

記録 金田義雄 (常盤中)
出席者

竹内ふき代 (日滝小)
額谷喜美子 (日野小)
関口虎雄 (栗ヶ丘小)
青沼 求 (旭ヶ丘小)
丸山佳春 (高甫小)
阪田智栄子 (仁礼小)
荒井桃江 (高山小)
篠原恵子 (須坂小)
黒田文雄 (東中)
田所道子 (相森中)
中嶋 章 (高山中)
竹内 修 (常盤中)
和田巴吉 (小布施中)
赤堀昭三常任委員 (常盤中)
小林謙三幹事 (栗ヶ丘小)
滝沢祥匡代議員会議長

吉田 悟 (東中)
井上光由副議長 (仁礼小)
竹前稀市常任委員 (須坂小)
坂上方一常任委員 (高山小)

おこした小三の丁児に見とおしをもった計画的な指導を行ない、問題が解決された事例の発表があり、それに続き、具体的な指導上の悩みや実践例が話し合われた。
○子どもの自由な姿の中から人間関係や問題点が見つかるので、それを鋭く見ぬく目を持つことと継続的な指導が必要である。
○高学年から中学にかけての女子がグループに固執する傾向があるが、それは無理に崩す必要はない。
○耐性を培うため、ある程度の厳しさも必要である。それには父親が男らしさを発揮する。
○子どもとのつながりを保つため日記の中で認めてやる。子どもが一杯尽くしているところを見て褒めてやる。学級通信で担任の思いを知らせる。
○「いじめ」の背景として、受験競争(偏差値)による子ども達のランクづけ、物質的豊かさの中の道徳心の希薄化等を示唆され、更に、教師・子ども・親の信頼関係の重要性を語られた。(記||島田)



発表者から、郡の研究委員会における研究授業(技術科実用テーパータップの作製)について、授業に至るまでの経過を、先生の悩み、苦勞や授業をしくむときの試行錯誤の姿を具体的に発表された。教材の工夫・授業の個別化への模索等、創造する授業を

そうとせず、学年集会等で、仲間の輪を広げてあげると効果的である。
○子どもは、あるこだわりがある、いつまでも心の中に残っている、適当な時期に出させて、整理してやるのがよい。何年も前に言われたことを覚えていて仕返しにいいことをすることがある。
○子どもとのつながりを保つため日記の中で認めてやる。子どもが一杯尽くしているところを見て褒めてやる。学級通信で担任の思いを知らせる。
○「いじめ」の背景として、受験競争(偏差値)による子ども達のランクづけ、物質的豊かさの中の道徳心の希薄化等を示唆され、更に、教師・子ども・親の信頼関係の重要性を語られた。(記||島田)

編集後記

第十一回教育懇談会特集号をお届けします。
日々の教育実践の中でぶつかるさまざまな問題を互いに語り合った中で、子どもたちにとってよりよい方向が見出すことができたのではないかと思います。
当日、基調提案をなされ、忙しい日程の中で、原稿をまに合わせてくださった先生方ありがとうございます。(記||小林・市川)

